



# いつまでも美しい外観に 田口知子氏が選んだ光触媒コーティング材 TOTOオキツモコーティングス——ハイドロテクトカラーコートECO-EX

FOCUS-IN  
material  
product  
engineering

建築の外壁をいつまでもきれいに保つTOTOオキツモコーティングスの光触媒塗料ハイドロテクトカラーコートECO-EX。優れた防汚性能だけでなく、環境にもやさしい塗料として注目されている。今回は最近竣工した「TRAPEZIUM」(『新建築住宅特集』0908)にこの塗料を使用した建築家の田口知子氏に、建築や環境の考え方について語っていただいた。

## 白い外壁を汚れから守る

まず「TRAPEZIUM」にハイドロテクトカラーコートECO-EXを使うきっかけは何だったのだろうか。「この住宅は、開放的なリビング・ダイニングとは対照的に、寝室や浴室などは最小限のデザインにして、白い塊となってダイニングの上部に浮かぶような構成になっています。そのため2階に迫り出したボリュームができたのですが、この部分の外壁をクライアントの希望もあり白くすることにしました。私はこれまで平滑な白い壁を使うことはほとんどありませんでした。都市では白い外壁はすぐに汚れてしまうからです。通常の塗料では、きれいに保つためには数年で塗り替えが必要になるかもしれません。そこで自浄作用のある光触媒塗料という選択肢が浮かびました。以前から機能性塗料には興味がありいろいろ調べていて、ハイドロテクトカラーコートECO-EXがよいのではと思いクライアントに薦めたところ採用が決まりました」

## 「白」が選びやすく

「モダニズムと白い壁というイメージは未だに強く、われわれに設計を依頼される方の多くは白い外壁を希望されます。しかもなるべくシンプルな、たとえば底もない四角い箱のような形を好まれるのです。しかし、設計者としては底なしで白い壁をきれいに保つことは難しい問題です。それが、ハイドロテクトカラーコートECO-EXを使うことで防汚性能が高くなるため、白が選びやすくなりました。それでクライアントの希望を叶えることに繋がると思います」

## 仕上げとの組み合わせで汚れを防ぐ

田口氏はハイドロテクトカラーコートECO-EXを使っても、塗料だけに頼るのではなく建築的にも汚れを防ぐ工夫を施している。「迫り出した2階部分は勾配のある屋根形状による雨垂れが心配で、後々のことも考えて、水切りが必要かTOTOオキツモコーティングスに問い合わせたところ、水切りはあった方が汚れにくいという

ことで、付けています。光触媒の性能を十分に発揮させるためにも2重3重の汚れ対策を施しています」  
そこまで考慮した設計をすることで、クライアントはより安心して住まうことができる。

## エコ意識の高いクライアントにも応える

田口氏はハイドロテクトカラーコートECO-EXの持つエコフレンドリーな効果にも着目。「この塗料は汚れを防ぐだけではなく、環境にやさしいさまざまな効果があることが分かって驚きました。遮熱効果によりCO<sub>2</sub>削減に繋がったり、光触媒作用によって大気中の汚染物質(NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>)を分解したりするんですね。これからは自分だけよければいいといった考え方ではなく、環境や地球全体を考えることが必要になってきますし、そういった意識の高いクライアントが増えてきていると感じます。設計者としても環境にやさしい製品は積極的に提案していきたいですね」 (編集部)

TOTOオキツモコーティングス株式会社  
<http://www.hydrotect.jp>



田口知子(たくち・ともこ) / 1966年広島県生まれ / 1990年東京大学工学部建築学科卒業 / 1990~98年長谷川逸子・建築計画工房勤務 / 1998年K&Tアーキテツ設立 / 2000年田口知子建築設計事務所に改称 / 現在、日本大学、東京理科大学非常勤講師 / 2005年建築士会住宅セレクトション(伊東豊雄×藤森照信)優秀賞 / 2008年「武蔵小山アパートメント」(本誌0802)で日本建築家協会優秀建築選2008入選



左:「TRAPEZIUM」北西の前面道路側より見る。2階の迫り出したボリュームの外壁にハイドロテクトカラーコートECO-EXが使われている。右上:1階住宅部分と地階のホールへのアプローチ。右下:地階のホールは建主の友人のアーティストがコンサートや演劇に使える。



左:1階ダイニング。中:ダイニングから2階への階段を見上げる。視線が奥まで抜けることで、空間の広がりを感じられる。右:階段室。吹き抜けから下のリビングに光が入る。撮影:本誌写真部